

富山大学
人間発達科学部
学部案内
2020



Human Development



「豊かな社会性と人間力」を有する教育人材の養成

人間発達科学部

2005年に、富山県にあった3つの国立大学を統合したとき、教育学部を改組して誕生したのが人間発達科学部です。人間発達科学部は、教育学部で培った学校教員の養成を中心に据えながら、心理、幼児教育、スポーツ、環境、情報といった生涯学習を支援する広い意味での教育人材を育成しています。

本学部を卒業すると、学士(教育学)の学位が授与されます。また、必要な単位を修得することで、幼稚園、特別支援学校、小・中・高等学校の教員免許状のほか、保育士などの各種資格も取得することができます。毎年多くの学生が教育人材として卒業しており、そのうちの7割近くが学校教員となっています。その他の学生は、資格等を活用して官公庁や一般企業に就職したり、専門性を高めるために大学院に進学しています。

人間発達科学部ができてから10年以上経ちましたが、人間発達科学とは一体どういう学問なのか、人間発達科学部では何が学べるのか、という質問をまだ受けることがあります。人間発達科学とは、既存の学問体系とは異なり、人間という複雑な存在を対象とし、発達という時系列的な変化を踏まえながら、多面的・多角的に考えていく学問と捉えることができます。人間は置かれた環境でその発達は大きく左右されるので、教育はとても重要な役割を担います。人間発達科学部は、人間のよりよい発達を支援する教育人材を育成する学部ですから、教育の本質を追究することも重要な目的となります。具体的には高度で専門的な知識を身に付け、教育現場をはじめさまざまな経験を積みながら、教育とは何か、人が学ぶとは何かを研究し、人を教え、支援する技術を身に付けることのできる学部です。

複雑で不断の変化をとまぬ人間の発達に、さまざまな切り口でアプローチするため、本学部には多様な学問領域を専門とする教員が所属しています。人間発達科学部のこうした学際性及び多様な学問領域が連携した学びと研究は、本学部の強みであり、他の学部には無い特色です。

異なる価値観と問題意識を持ち、さまざまな分野での活躍を目指す学生が、お互いの違いを認め合い、一つ屋根の下に集い、切磋琢磨する学部だからこそ、豊かな社会性と人間力が育まれるものと考えています。このような人間発達科学部の取り組みに共感してくれる次代を担う若い人たちに大いに歓迎いたします。



学部長あいさつ

人間発達科学部長

大川 信行

Okawa Nobuyuki

学部の組織と募集人員



推薦入試はコースごとに、前・後期の一般入試は学科ごとに実施します。人間環境システム学科前期入試(文系・理系・実技系)は高校までの勉学の成果を入試時に生かしてもらうためのものです。コース分けは、入学後、1年次前期末に実施します。



発達教育学科: 定員 80 名

(一般入試前期 52 名、一般入試後期 20 名)

人間環境システム学科: 定員 90 名

(一般入試前期 50 名※、一般入試後期 25 名)

※文系 20、理系 20、実技系 10

教育心理コース

学校教育コース

発達福祉コース(推薦入試 8 名)

地域スポーツコース(推薦入試 10 名)

環境社会デザインコース

人間情報コミュニケーションコース(推薦入試 5 名)

<附属施設> 附属人間発達科学研究実践総合センター、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校

令和3年度入学者選抜方法等の変更(予告)



令和3年度入学者選抜から、人間環境システム学科において、アドミッション・オフィス入試(AO入試)を実施します。なお、発達教育学科については変更はありません。今後、さらに変更を行う場合は、改めて本学ウェブサイト等でお知らせします。

| | |
|-----|--|
| 変更前 | 地域スポーツコース(推薦入試 10 名) 人間情報コミュニケーションコース(推薦入試 5 名) |
| 変更後 | 地域スポーツコース(アドミッション・オフィス入試 10 名) 環境社会デザインコースまたは人間情報コミュニケーションコース(アドミッション・オフィス入試 5 名) |

人間発達科学部で取得可能な教員免許状(2020年度入学生)

- 幼稚園教諭 1 種
- 小学校教諭 1 種
- 特別支援学校教諭 1 種(小学校教諭免許取得を前提条件として取得可能)
- 中学校教諭 1 種(数学・理科・社会・保健体育・英語)
- 高等学校教諭 1 種(数学・理科・地歴・公民・保健体育・英語)



学科によって取得できる教員免許状は異なりますが、小学校教諭 1 種・特別支援学校教諭 1 種・幼稚園教諭 1 種・中学校教諭 1 種(保健体育)・高等学校教諭 1 種(保健体育)の教員免許状を取得できるのは、富山大学では人間発達科学部のみです。

人間発達科学部で取得可能な資格

保育士(発達教育学科発達福祉コース)、認定心理士(発達教育学科教育心理コース)、社会福祉士受験資格(発達教育学科発達福祉コース)、学芸員(他学部の授業の履修が必要)等



附属幼稚園における教育実習

Reframing!

リフレーミング・プロジェクト

Project

現代社会で人を育てる為に必要な「8つの能力」

人間発達科学部では様々な実践を通じ現代に必要な8つの能力、「企画力・創造力・調整力・実践力・洞察力・批判力・判断力・コミュニケーション力」の向上をめざしています。

人を育てる能力の高い人材として社会に出られるよう、大学生としての学び方の基礎から実践的な教育プログラムまで、様々なカリキュラムやプロジェクトでバックアップします。

豊かな人材を育てるために

教育実習

教育実習は附属学校園だけではなく、協力学校にもお願いし、学生を受け入れる体制を整えていただいています。大学では学べない発問の仕方、板書の仕方、児童との接し方など、実際に教育現場に立ったときに役立つ内容について、学生達は丁寧な指導を受けられます。

このようにコースに所属する学生が教師として求められる資質や能力を身につけるための環境と体制について、常に心を配っています。



附属中学校における教育実習

附属小学校における教育実習

インターンシップ



人間発達科学部のインターンシップは、「インストラクショナルデザイン」「ボランティア体験」との組み合わせの中から必要な単位数を修得しなければならない科目（選択必修）です。

就労体験の一つであり、関心のある企業等で10日間を目安に実習・研修等を受けます。富山県インターンシップ推進協議会が管理している受入れ先企業等から選択し、3年生の夏季休業期間中に履修する事を原則とします。

ただし、単に実習・研修を受けるだけではなく、社会人としてのマナー等に関するセミナーを受講したり、面接を受けたりする事前の準備があります。事後指導を含め、これらを一体のものとして取り組む事で効果を上げています。

インストラクショナルデザイン



発達教育学科、人間環境システム学科の両学科にまたがり、問題解決能力やコミュニケーション能力などの現代的な教育課題の解決に必要な能力を育成するために、学部の専門共通科目として開講されています。

インストラクショナルデザインの考え方に関する基礎知識や支援ツールを活用した協調協働作業の方法を学んだ上で、学校教育から社会教育までの幅広い分野で活躍している先人の貴重な教育実践を聴いて、「学びを考え、教育をデザインする」力を育てようと企画されました。

専門的知識はもとより、プロジェクト型学習として、昨今求められる課題の探求力や協調して問題解決に当たる協調力、批判力、マネジメント能力などを育成しようとするものです。

基礎ゼミナール

1年次の前学期、週に1回基礎ゼミナールを履修し、大学・学部・学科・コース内容を理解してコース選択に役立てるとともに、大学生として必要な基礎スキルを身につけることができます。

●発達教育学科、講義の内容(例)

| | | | |
|----|--|-----|--|
| 1回 | オリエンテーション 大学での学びとは 学科の説明 | 9回 | コース、サブコースの選択 各コース、各サブコースごとのオリ エンテーション |
| 2回 | ①学校教育コースのねらい、特色、 進路、大学での学び方、教員とい う職業の魅力 ②教育心理コースの概要 ③発達福祉コースの紹介、幼児教育 サブコースの紹介 | 10回 | 教育心理コース…心理学入門:様々 な研究の概観と研究方法について 学校教育コース…教員として知っ ておくべき表記法(平仮名・片仮名・ ローマ字) 発達福祉コース…発達福祉に関する 課題の設定 |
| 3回 | ①教師とは何か…教師とはどのよう な存在か、よい教師とは ②心理学の実例(模擬授業) ③社会福祉サブコースの紹介、特別 支援教育サブコースの紹介 | 11回 | 教育心理コース…心理教育的ア プローチの実践と対人関係ワーク 学校教育コース…教員として知っ ておくべき表記法(仮名遣い・送り仮名) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の発表と研究倫理と 引用の方法 |
| 4回 | ①発達福祉コースの紹介、幼児教育 サブコースの紹介 ②学校教育コースのねらい、特色、 進路、大学での学び方、教員とい う職業の魅力 ③教育心理学コースの概要説明(授 業、履修過程、教員紹介)、心理学 の実験体験(協記憶に関する実験 のデモンストレーション) | 12回 | 教育心理コース…科学としての心理 学を解説・レポートの書き方の説明 学校教育コース…教員として知っ ておくべき表記法(筆順) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の発表と整理 |
| 5回 | ①社会福祉サブコースの紹介、特別 支援教育サブコースの紹介 ②教師とは何か…教師とはどのよう な存在か、よい教師とは ③心理学の各分野の紹介(学習・社 会・発達・臨床・教育)、心理学コ ースの教員紹介 | 13回 | 教育心理コース…実験実習「要求水 準」を実施 学校教育コース…レポートの書き方 (レポートとは何か・書く上での注意点) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の整理に基づく議論 |
| 6回 | ①図書館ガイド…図書館の活用、本 と雑誌の検索、情報の活用など ②発達福祉コースの紹介、幼児教育 サブコースの紹介 ③学校教育コースのねらい、特色、 進路、大学での学び方、教員とい う職業の魅力 | 14回 | 教育心理コース…実験結果のまとめ 方・知覚と認知について解説 学校教育コース…テキストの読解 (正確に読む、要約・分析する) 発達福祉コース…設定した課題につ いての自己学修の深化 |
| 7回 | ①コース(教育心理コース)の紹介 ②図書館ガイド…図書館の活用、本 と雑誌の検索、情報の活用など ③教師とは何か…教師とはどのよう な存在か、よい教師とは | 15回 | 教育心理コース…実験実習「表情認知」 学校教育コース…大学での今後の 学びを展望する(批判的に考えること、 将来を見据えた学習計画) 発達福祉コース…設定した課題につ いての発表会への運営と発表 |
| 8回 | ①専攻を生かした進路の選択につ いて ②社会福祉サブコースの紹介、特別 支援教育サブコースの紹介 ③図書館ガイド…図書館の活用、本 と雑誌の検索、情報の活用など | | |

●人間環境システム学科、講義の内容(例)

| | | | | |
|----|---|-----|---|---------------|
| 1回 | ●自分を知り、仲間を知る 「仲間づくりゲーム」 | 8回 | 人間環境システム学科 コース紹介 (概要、特色、進路) 希望コース仮調査 | 研究室 個別訪問期間 |
| 2回 | A 情報を集める 「図書館編」 B ノートを通した 主体的情報整理 C ネットワークリテラシー | 9回 | 10年後の自分、 10年後の世界を考える | |
| 3回 | A ノートを通した 主体的情報整理 B ネットワークリテラシー C 情報を集める 「図書館編」 | 10回 | 学校教員の 仕事について | |
| 4回 | A ネットワークリテラシー B 情報を集める 「図書館編」 C ノートを通した 主体的情報整理 | 11回 | 所属コース選択 | |
| 5回 | データを基に考える <統計入門> | 12回 | 表現する、伝える 「ポスターセッションの説明」 | |
| 6回 | テキストで自分を主張する <レポート・論文の書き方 まとめ方> | 13回 | 学生生活 (期末試験、生活全般) 表現する、伝える 「ポスター作成」 | |
| 7回 | 自分を知り、仲間を知る 「こころの科学」 | 14回 | 表現する、伝える 「ポスターセッション①」 | |
| | | 15回 | 表現する、伝える 「ポスターセッション②」 | |

特別研究



ゼミ室における自主的な学修(学校教育コース・図画工作科ゼミ)



卒論中間発表会(学校教育コース)



卒論発表会(学校教育コース)

4年間のプロジェクトの総決算となるのが特別研究です。
2年次の後期に、それまで学んで来た内容を元に自分が希望する研究内容を決定し、3年次になるとコースごとに専門の担当教員の主催するゼミナールに所属して自主的な学修を始めます。このゼミナールでは、問題の発見、解決方法の選択、調査や実験などの活動、考察や発表のプロセスを1年間かけて実践的に学びます。そこでは、専門研究に関係のある論文を読んだり、実際に教科ごとの教材研究を行って毎週発表したり、学会に参加してより最新の研究

内容について、教員の指導の下、少人数でじっくり学び合います。
そして、身につけた技法や問題意識をベースに、自分で選んだ研究テーマについて中間発表会で発表し、他のゼミナールの教員や同学年後輩の学生たちからいろいろな質問を受けて回答しながら、指摘された課題に関する問題点を修正していきます。そして、4年次にその成果を卒業論文にまとめて提出し、その後、それぞれのコースで卒業論文を元に作成したプレゼンテーションで発表会を行います。

■富山県教育委員会との協力関係で実施される特色ある事業

●学びのアシスト/スタディ・メイトジュニア(学校インターンシップ)

「学校インターンシップ」は、講義と小学校でのフィールドワークをあわせもった、創造的な授業です。4月から6月の大学での講義を通して学校教育や子どもについての基礎的知識を得たのち、6月下旬から翌年の2月下旬まで小学校でフィールドワーク(実習)を行います。



この実習では、2つのコースに分かれます。Aコースは「学びのアシスト」、Bコースは「スタディ・メイトジュニア」と呼ばれ、どちらも毎週一日程度、学校現場に身を置き、子どもたちの学びや育ちを約8ヶ月間、支援します。

Aコース「学びのアシスト」は、アシスタント・ティーチャーとして学級担任の補助をしながら、教師は授業や学級経営をどのように進めているのか、個々の子どもと学級をどのように育てているのかについて学びます。

Bコース「スタディ・メイトジュニア」は、学習や友達とのかかわり方につまずきを抱えている子どもをサポートしながら、子どもの視点にたった適切な支援とはどのようなものかについて学びます。

両コースともに、富山県(市町村)教育委員会と富山大学人間発達科学部との緊密な連携、協力のもと、配属された富山県内の小学校で教師の仕事を継続的に体験します。

数週間の教育実習とは異なり、数ヶ月という長期に渡って教師の学級づくりを学び、子どもたちの成長のプロセスを身近に感じ支援できることが、学校インターンシップの最大のメリットです。子どもたちと積極的にかかわり合いながら、教師の仕事の素晴らしさを実感してほしいと願っています。



学びのアシストに参加して

●学びのアシストへ初めて行ったときは、何をすればいいのか分からず、教室でただ様子を見ているときがありました。そんな時、子どもたちが「一緒に遊ぼう」と声をかけてくれて、子どもとの距離が縮まったように感じ、嬉しかったです。最終日には、子どもたちがお別れ会を開いてくれて、「さみしい」と言って泣く子もいました。子どもから、ここまで信頼を得られるのは、教師という仕事の魅力だと思いました。

学びのアシストでは、嬉しかったこともあれば、苦しかったこともありました。泣いている子がいて、どうしていいかわからなかったときに、先生は子どもの話をしっかり聞いて対応していました。自分ももう少し上手に対応できるようにになりたいと思いました。

(平成30年度1年・笹原 茜)



●私は毎週、学びのアシストに行くことがとても楽しみでした。元気いっぱい子どもたちとたくさん遊び、たくさん学ぶことができる学びのアシストの日は、いつも充実していました。先生方は一生懸命に子どもたちと向き合っておられて、何度も「自分もあんな先生になりたい!」と思うことができました。この実習で、ただ「教師になりたい」という気持ちだけではなく、「よい教師になるために学びたい!」という気持ちが強くなりました。この実習で学んだことを今後に生かし、立派な教師になります。本当にありがとうございました。

(平成30年度1年・廉 千怜)

●約半年間、学びのアシストとして小学校に行き、実際に教室の雰囲気や子どもたちとの関わり方、先生としての振る舞い方など、大学の講義では学ぶことのできない多くのことを学びました。このような貴重な体験ができたのは、お世話になった小学校の先生方や子どもたちをはじめ、この事業にご協力いただいた全ての方々のおかげです。本当にありがとうございました。そして、この貴重な経験を生かしていきけるようにこれからも努力していきたいと思っています。

(平成30年度1年・山岸 亜未)

スタディ・メイトジュニアに参加して

●私は子どもたちとの関わりの中から、一人ひとりの個性に沿った指導の大切さを学びました。漢字の学習に関して、Aさんはスラスラと早く進めていくのに対し、B君はゆっくり進めていくという、全く正反対の学習を行う2人の子どもの指導補助を同時に行ったことがありました。Aさんはスラスラ進むが筆圧が薄くなってしまったり線からはみ出してしまうことがあったため、「ゆっくり」「丁寧に」を合言葉にして学習していくと、きれいになぞることができました。B君は丁寧にやられてはいるが集中力が続かず次に進むことが難しかったため、漢字の読み方を見開きのページから探す際、B君が好きな探し絵本のように「どこにあるかな?」と問いかけると、B君は楽しみながら漢字を探し、そのまま漢字の学習に取り組むことができました。このように、一人ひとり異なる子どもの個性に沿って指導を行うことで、子どもの「できた!」を引き出すことができるということがわかりました。

また、子どものこのような学び方の特徴は、回数を重ねて子どもを理解するにつれて分かってくるものであり、子どもとじっくり関わることの大切さも同時に学ぶことができました。

(平成30年度1年・和田 京花)

●観察実験アシスタント

授業やゼミの空き時間を活用し、毎週1回程度通勤する「長期のインターンシップ(有給)」で、小学校・中学校理科の実験・観察の準備・片付け、予備実験、授業補助、理科室や理科準備室等の環境整備をするのがその仕事です。いずれも、小・中学校の理科授業を行うための重要な仕事で、これらを経験することで、学生時代に理科授業づくりについての現場感覚を磨いています。



本学部学生は、平成29年度のべ30名、平成30年度のべ32名が富山県内小・中学校において活躍しました。毎年登録する学生や、2校兼務をしている学生もあり、学校の違いをも学んでいます。

観察実験アシスタントが理科の授業に必要な基本的な知識や技能を身に付けるために、6月と9月に富山県総合教育センターで行われるのが実技研修会です。6月は初めて観察実験アシスタントになった学生が対象で、9月は全員が受講対象で、物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて研修を受けます。



研修内容は、微生物や気孔の顕微鏡観察や水溶液のろ過および蒸発乾固といった小・中学校理科の指導内容に直結する内容や、破損した導線の修理に役立つはんだ付けの技能習得など多岐にわ

たります。これらの研修内容は、観察実験アシスタントとしての仕事のみならず、将来教職に就いたときにも大いに役立つものです。



観察実験アシスタントに参加して

●私は、理科実験観察アシスタントでは、主に理科の授業前準備、授業後の片付け、理科準備室の整理整頓を行います。

最初は実験用具の置き場所が分からなかったり、準備に時間がかかってしまったりと、戸惑うことばかりでした。しかし配属校の先生とコミュニケーションをとりながら積極的に仕事に取り組むことで、だんだん作業が早くなり、楽しんで行うことが出来るようになりました。また、実際の教育現場に携わることにより、先生方の授業づくりや、リアルな子どもの反応に触れることが出来、多くのことを学ぶことができます。今では、子どもたちの授業の様子を見ながら、安全面に配慮したり、実験が成功がうまくいくようにサポートしたり、さらには子どもたちと学習内容について一緒に考えたり、将来教員になるための実践的な力が身につけてきているように感じます。

また、毎週学校へ行くと、子どもたちや先生方が笑顔で歓迎してくれます。仕事を終えると「ありがとう。助かりました!」との声かけをしていただき、授業では子どもたちが「一緒に勉強できるね。」と私と学ぶことを楽しませてくれているため、とてもやりがいを感じる事が出来ます。配属校の少しでも多くのサポートができるように、今年も学ぶ姿勢を忘れずに楽しく活動を行いたいと思っています。

(学校教育コース4年・高橋 梨奈)

●地域教材研究(富山学)

本講義の目的は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(i)教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに、(ii)教材開発などの実践的指導力の向上を図ることにあります。この講義においては、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事の方を講師として、15回の講義の内11回分を担当していただいています。



第11回 五箇山のくらし



第5回 立山の歴史と文化



第10回 とやまと小泉八雲

●平成30年度に行われた講義の内容

- 第1回 「富山学」とは何か
- 第2回 地域教材研究とは何か
- 第3回 教材の魅力について考えるー越中八尾「おわら」を通してー
- 第4回 とやまの運動会 いまむかし
- 第5回 立山の歴史と文化ー立山曼荼羅の世界観ー
- 第6回 とやまの食育ー地産地消と食文化の継承ー
- 第7回 映画ロケ地にみる富山の魅力
- 第8回 とやまの体育・スポーツー子供たちの体力の現状と向上策について考えるー
- 第9回 富山のよさを生かした社会科の授業ー豊かなくらしをつくるために力を尽くした人々に学ぶー
- 第10回 とやまと小泉八雲ーヘルン文庫を富山県に招いた先人の思いに学ぶー
- 第11回 五箇山のくらし
- 第12回 とやまの自然と産業の教材化ー科学オリンピックを通じて富山を考えるー
- 第13回 旅の人とふるさと「とやま」ー他県出身者から見た「とやま」の風土ー
- 第14回 前田利長が築いた歴史都市「高岡」探訪
- 第15回 「富山学」まとめ

受講学生の感想

●自分たちが住んでいる地域だからこそ、経験できることをたくさん経験し、目で見て触れて学ぶことができれば、身近なので親しみやすく自分たちが住んでいる地域のよい所も悪いところも知ることができる。

- 私は、富山県出身でこの講義で取り上げられた教材は、身近で親しみがあるものが多かった。そのためもあってか、毎週楽しみながら積極的に講義に参加することができた。
- 今回、この講義内では実際に自分たちが教材に関連することを体験したり、実践する機会が多かったりしたので、このような授業の仕方を学ぶことができてよい経験になった。
- 子どもたちいかに面白さや魅力を伝え、より地域について学んでもらうために、子どもが主体に活動できるように教師が授業をすることが大切だと思った。
- 地域に一つある公民館や歴史資料館といった公共の教育施設と連携して授業をより充実させたものを工夫する必要性を感じた。

国際交流の機会提供

●部局間交流提携締結校について

本学部は、海外の大学の学部と部局間交流提携を結んで本学部の学生が短期で訪問研修を行ったり、留学生の受け入れを行ったりしています。ウダヤナ大学文学文化学部／ピナ・ヌサンタラ大学人文学部（インドネシア）、コンケン大学教育学部（タイ）、ライデン大学人文学部（オランダ）、マドリッド自治大学等教育学部（スペイン）、ウラジオストク／ヴァリスキー海軍国立大学（ロシア）。

●マドリッド自治大学等訪問研修（スペイン・マドリッド）

平成22年度より毎年、図画工作科教育論を受講した学生を中心に参加希望者を募って、マドリッド自治大学等訪問研修を行っています。

昨年度は、本学部から5名の学生が参加し、教育学部の3年次学生と共に美術の授業を受講したり、折り紙のワークショップを開催して、日本の伝統文化に触れてもらったりしました。また、現地の公立小学校を訪問して、全部で4つの学年の児童を対象に、図画工作科のワークショップを英語を使って行いました。この他にも現地の日本人学校を訪問したり、プラド美術館などの世界的な美術館を見学し、セゴビアアトレドなどの世界遺産を訪れて充実した訪問研修になりました。



●参加学生の感想（平成30年度学校教育コース3年・杉本 愛華）

まず、たくさんの材料を準備していただいたアルデバラン学校に感謝しなければならないなど感じている。自分自身が持っていた材料だけでは到底足りなかった。教師になった時には、子どもたちが自由に思ったように並べられるように、できるだけたくさんの材料を用意しなければならないなど感じた。また、前でも実際にやっている様子を子どもたちに見せることは、子どもたちが活動にすっと移ることができるためにも、重要な手立てだなというふう感じた。

授業に関しては、一年生ということもあって、「見てみて!」「写真撮って!」などとアピールしてくる子どもたちがたくさんいて、子どもの姿は国を超えても変わらないなとまず思った。途中で鑑賞の時間を設けることで、子どもたちが他の活動の良さを取り入れている様子も見受けられたし、最後の鑑賞の時には、自分なりの言葉で、他の人の活動の良さを伝えている姿が見受けられたので、やはり表現活動の中に、鑑賞は必ず取り入れるべきだなというふう感じた。



●コンケン大学等訪問研修（タイ・バンコク等）

富山大学と大学間交流の関係にあるタイ北部のコンケン大学に、発達福祉コースの特別支援教育や幼児教育を学ぶ学生を中心に約2年に1度、研修旅行をしています。大学生同士の文化交流会のほか、大学附属の幼稚園、小学校、中学校、自閉症センターを訪問し、タイの保育・教育に直に触れたり、タイの子どもたちに日本の伝統遊びを教えたりしています。コンケンだけでなく、経由地のバンコクにも滞在し、世界遺産である王宮やアユタヤ遺跡を巡ったり、トムヤンクンやマンゴーなどのタイの食文化に触れたり、大学生の時にしかできない経験ができる充実した研修旅行です。社会人になる上で世界の中の日本事情や日本の教育を大局的に見ることで、できるとも貴重な機会です。



●参加学生の感想（平成29年度発達福祉コース2年・川合美希）

私たちは八月に、タイ王国に六日間の短期研修に行ってきました。前半の三日間はコンケンで研修を行いました。コンケン大学の日本語学部の学生とお互い自国の伝統的なあそびについて紹介しあったり地域のナイトマーケットを散策したりしました。附属幼稚園と自閉症センターではちぎり絵を、附属小学校では福笑いとフルーツバスケットを、附属中高一貫校では習字を紹介し、タイの子どもたちと楽しみながら日本の文化を体験する時間を設けました。外国語教育が盛んとは聞いていましたが、日本語学部の学生はもちろん、附属学校の子どもたちは日本語がとても上手で、日本語での会話を楽しむことができました。また、漫画やアニメなどを通して、日本の文化がタイに伝わっていることを交流する中で実感しました。

後半の三日間はタイ文化理解の一貫として、バンコク市街を散策したり水上マーケットに行ったりゾウ乗り体験をしたりする中で、物価や建造物、料理の味付けなど様々な面から文化の違いを感じることができました。



●ライデン大学（オランダ・ライデン）との交流

人間発達科学部では、2016年にオランダ・ライデン大学人文学部と学部間交流協定を締結しました。ライデン大学は世界ではじめて「日本学科」を設けたことでも知られ、その研究力は世界トップクラスです。協定に基づき、2017年度から毎年15名程度の学生が富山を訪れ、富山大学で日本語と日本文化、そして富山について学んでいます。人間発達科学部の学生にも、年間最大5名まで正規留学の途が開かれています。



2018年10月には、学校教育コースや地域スポーツコースの学生など11名の学生と学部教員3名が学科やコースの枠を超えたグループを組み、ライデン大学を訪問しました。訪問の際には、ライデン大学日本学科の学生とのジョイント・セッションを実施し、互いの大学や地域、国の様相や文化などについて情報交換しながら交流を図りました。

また、ライデンやアムステルダム、ハーグ、ユトレヒトといった歴史と伝統のある都市を中心に、芸術・文化・スポーツ等に直に触れる機会を得ました。現地では、各コースの学びを深めつつ、帰国後も学科・コースを横断して多角的な視野で意見交換を行うことができました。今後も、年1回程度こうした研修を続けていく予定です。

●参加学生の感想（平成30年度地域スポーツコース3年・金田華美）

私は現在、保健体育の教員を志望していますが、ライデン大学を訪問し学生と交流した中で、学校教育のカリキュラムは国によって全く異なることが分かりました。日本の教育制度に加え、海外の教育制度も学んでいく必要があると強く感じました。さらに、オランダの学生が学問として日本のことを追究している姿に感銘を受けました。他にも、国立美術館やアンネフランクハウス見学、プロスポーツ観戦と様々な文化に触れることができ、充実した研修となりました。

●海外語学研修

アメリカ合衆国における大学間交流締結校であるマーレイ州立大学、ハワイ大学マウイカレッジ、チャールストンカレッジには、本学部からも毎年多くの学生が留学（短期・長期）を行い、語学力の向上や異文化に触れる体験を通して見聞を深めています。



●参加学生の感想（平成30年度人間情報コミュニケーションコース3年・鹿肝理美）

私は、マウイカレッジ英語研修プログラムに参加して学校生活・日常生活のすべてを英語で送るということは初めての経験であり、新鮮でした。大学の授業はペアやグループで活動することが多く、クラスメイトは国籍も年齢もバラバラでした。私は自分の意見を言うことが苦手で、緊張してあまり積極的にかたがた話さずしてしまっていました。クラスメイトや先生は最後までしっかり聞いてくれ、失敗しても励ましてくださいました。文法や発音ももちろん重要だが、失敗を恐れずに積極的に自分を伝えることが大切であると学びました。

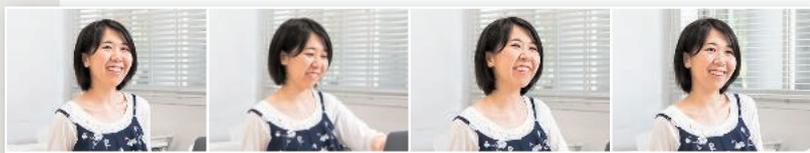
ホストファミリーはとても優しく、毎日どこかに連れて行ってくれたり、観光地の解説をしてくれたりしました。私が失敗しても励ましてくれたり、何をしたらよいかわからなかったときに指示を出してくれたりしました。笑いが絶えない毎日、本当の家族のような時間を過ごすことができたと思います。

3週間という短い期間ではありましたが、他国の人や文化に触れる良い機会になりました。お互いを尊重しながら積極的にコミュニケーションをとることの大切さを改めて感じる留学でした。

発達教育学科 教育心理コース

こんな人にお勧めします！

- 心理学を活かした教師になりたい人
- 心理学を活かした仕事をしたい人
- 心の仕組みを知りたい人



写真左：4年 藤巻凌さん<富山県出身>

写真右：4年 大島麻衣さん<富山県出身>



□□ Educational Psychology

コースの特徴

心理学の様々な領域を科学的に研究し、実践に活かす研究と教育を行います。人を対象とした実践に活かすには、人の学習や知覚・認知や感情の仕組み、対人関係や学習の基盤となる認知発達のプロセスを正しく理解する必要があります。本コースでは、人の心の仕組みに関する基礎的な知識、実験や調査などの科学的な心理学研究の訓練を基盤としながら、それらを教育や臨床などに活かしていきます。そのことで、心理学的な知見を備えた教師として学校現場で活躍できる人を養成しています。また、心理の専門家として、公務員の心理職や児童相談所にて、相談・心理判定などを行える人を養成しています。

先輩からひとこと

「教育心理コースでは、教育心理学を中心として様々な分野の心理学について学ぶことができます。専門分野の異なる5名の先生方がいらっしゃるため、知覚や認知を始めとした基礎心理学から臨床や教育といった応用心理学まで、自分の興味がある分野について幅広くまた深く学習をすることができます。海外誌の英語論文を購読することもできるので最先端の心理学について学ぶことができ、質の高い研究をすることが可能です。また、卒業研究では自分のやりたいことや興味・関心があることについてとことん追求することができます。卒業研究を通して身につく論理的なものの見方や考え方、得られたデータから情報を読み取り信頼性・妥当性を検討する批判力や統計リテラシーは、大学のみならず社会に出てからも必要とされるものです。

私の所属する研究室では、身体の内部感覚と時間知覚の関連や、どうすれば他者の視点に立てるのか、文化差で学習の仕方は変わるのかといったテーマを中心とした研究をしています。卒業研究では心理実験を予定しています。心理実験は条件の統制が非常に難しく、手法を誤れば得られる結果が大きく異なってしまう繊細なものです。実験の計画・実行はとて大変ではありますが、実験がうまくできたときに得られる達成感とはとても大きく大きなものです。

大学は単に学ぶだけのところではありません。好奇心や興味によって自分のしたいことを研究する場でもあり、これは中学校や高校にはないところです。日頃感じている些細な疑問をそのまま終わらせるのではなく、「なぜ?」と突き詰めていくことが、研究を始める第一歩だと思います。是非、その疑問を大切にしていってほしいと思います。」

(4年 藤巻凌さん)

「このパンフレットを手に取り、教育心理コースのページを読んでいるあなたは、おそらく心理学に興味をお持ちなのでしょう。あなたは「教育心理学」と聞いて何を思い浮かべますか。また、このコースに入って、何の研究をしたいと思いますか。

教育心理コースを選んだ人たちの理由はさまざまです。カウンセラーになりたい人、心理学が面白そうだった人、あるいは就職を考えたときに妥当だと思った人。私の同期もそれぞれ理由があってこのコースに入っています。私自身は弱い自分の心を分析し、変えたいと思い、このコースを選びました。それぞれ異なる理由があっても、私たちに共通した方向性があり、それを前提として研究に取り組んでいます。

それは、人の行動や動機が発現する仕組みを、教育分野の視点からアプローチすることです。教育心理コースではまず、子どもの学習に対する動機付けや、学童期の精神発達の過程など、教育分野に関係する心理学の理論を学びます。基礎的な理論を身につけたのち、心理学実験やスクールカウンセリング実習などの専門的な実践へと移行します。しかし、ただ理論を覚え、実践をこなすだけでは研究を形にできません。大切なのは、学んだことを日常にある身近なことに結びつけ、自分が追究したい研究テーマに繋げることです。このコースを選んだ人は、「教育心理学」という枠組みの中で研究テーマを見つけ出し、より深みのある研究へと発展させていくことが求められます。

このコースに興味を持った方は、教育心理学を学ぶことで何ができるのかを想像してみてください。そして、自分にとって有意義な研究ができるかをよく考えてから、最良の選択をしてください。」

(4年 大島麻衣さん)

取得可能な免許・資格

教育心理コースでは小学校教諭1種免許を取得できます。また、それを条件として特別支援学校教諭1種免許と幼稚園教諭1種免許の取得が可能です。

心理学関連では、認定心理士の資格が取得できます。

就職状況

例年、教師として学校現場に出ることを目指す学生が一定数います。近年、子どもをめぐる状況は複雑化しており、生徒と上手く関わったり、よりよい授業を行うためにも、心理学的な知識が求められます。また、スクールカウンセラーなど、心理の専門家と連携できる力が求められています。

他には、公務員での心理職、児童相談所の心理判定員や家庭裁判所調査官のような心理の専門職を目指す学生もいます。また、実践や研究を深めるため、大学院へ進学する学生もいます。

カリキュラムの特徴

「学習心理学」「知覚心理学」「認知心理学」など人の心の仕組みについての基礎知識を学べる科目、「発達心理学」「青年心理学」など人の発達に関する心理学的な基礎知識を学べる科目、「心理学研究法」「心理学実験法」など心理学を自分でできるようになるための科目、「教育の方法と技術」などよりよい授業実践につながる科目、「教育相談」や「臨床心理実習」など子どもたちの心理的サポートに役立つ科目を学びます。このように幅広く学び、4年生では自分の関心領域のテーマで卒業論文を作成します。

教員一覧と専門分野

- 石津 憲一郎(カウンセリング心理学・学校心理学)
- 小川 亮(教育心理・教育工学・情報教育)
- 姜 信善(発達心理学)
- 近藤 龍彰(発達心理学・臨床心理学)
- 佐藤 徳(社会心理学・実験心理学)



写真左：4年 太田風紗さん<富山県出身> 写真右：4年 沼田涼平さん<富山県出身>

□□ Teacher Education

コースの特徴

学校教育コースでは小学校の教員を養成しています。子どもたちを理解し、共感する能力を身につけ、学習意欲を高める指導法を実践的に学びます。教員になるには教員免許状が必要です。そのため、学校教育コースでは教員免許取得条件となる科目を系統的に用意しており、学生は1年次から4年次まで順次修得していきます。すべての科目を修得すると、卒業時に小学校教諭1種免許状が取得できます。

また、小学校教員免許状と合わせて、特別支援学校、幼稚園の免許状を取得することも可能です。

先輩からひとこと

「学校教育コースには、教師になって子供たちに学ぶ楽しさを伝えたいとか、子供たちの成長を間近で感じながら共に歩んでいきたいなど、高い志を持った学生が集まっています。同じ志を持った仲間がいるので大変心強く、また楽しく学校教育について学ぶことができます。

学校教育コースでは、実際に小学校に出向いて子供たちとふれ合ったり、現役の先生方から指導方法を学んだりする機会が豊富にあるため、教師を目指す学生にとって魅力的であると感じます。子供たちが学校生活の中でどのように過ごしているのか、また学校の先生方は子供たちを学習に惹き付けるためにどのような手立てをしているのかなど、教育現場の空気感を肌で感じることができるとともに、教師という職業へのやりがいを感じることができます。教育実習中、子供たちの前で緊張しながら授業を行った経験や、時間をかけて絆を深めた思い出は、何にも代えがたい財産になります。

また、大学内の講義では、教育現場で様々な経験を積んでこられた実力のある先生方から、実践をふまえた多様な知識、技能を学ぶことができます。講義で学んだ理論を模擬授業等で試す機会が与えられているので、教師になるために必要な技量や自信の向上につながります。大学内に信頼できる先生や仲間がいることで、安心して学ぶことができます。

子供が好きで、学校教育に興味がある人、目的意識

をもちながら有意義で実のある大学生活にしたい人は、ぜひ学校教育コースで素敵な日々を送ってください。」
(4年 太田風紗さん)

「学校教育コースには主に小学校教師を強く志す学生が集まり、日々学び合っています。そして、教科教育学や教育心理学、教育哲学など様々な分野の専門の先生が、学生の興味関心を引き出す講義を開講してくださっています。その中でも印象に残っている講義を二つ紹介します。一つ目は学校インターンシップです。1年次から実際の教育現場に行き、授業を観察したり、子ども達と関わり合ったりする中で、教師になろうという気持ちを高めることができました。また、中間報告会としてそれぞれの学生が学んだことを共有する時間が設けられていたので、様々な視点から教育について考えることができ、非常にいい経験となりました。二つ目は各教科教育論です。国語、算数といった主要教科だけでなく、体育や図画工作などの教育のあり方についても、模擬授業などの小学生の視点に立った活動を通して、楽しく学ぶことができました。

このような講義の他にも、2年次、3年次と教育実習に2回いくことができるなど、実践的な活動も多くあるので、講義だけでは学ぶことができない指導法を身をもって学ぶことができます。

このコースには、他のコースに比べて教師を目指す学生が多く集まります。同じ目標を持った学生と出会うことができるので、互いに支えあったり、高めあったりすることができる楽しい大学生活を過ごすことができると思います。小学校の教師になることを志している人だけでなく、子どもと関わるのが好きな人にとっても魅力的なコースです。」
(4年 沼田涼平さん)

取得可能な免許・資格

学校教育コースでは、小学校教諭1種の免許が取得できます。また、この免許取得を条件として、特別支援学校教諭1種、幼稚園教諭1種の各免許の取得が可能です。

就職状況

学校教育コースという性格上、学生の就職先は教育・学習支援関係が中心です。最も希望者の多い教員になるには、都道府県で実施する教員採用試験を受け、合格する必要があります。なお、教員採用試験の日時や方法は、都道府県でも公立・私立でも異なります。そのため、年間を通じて「教員採用セミナー」を開催し、採用試験の情報提供や受験指導(志願票の書き方、模擬面接、実技など)を行っています。

カリキュラムの特徴

教員養成を目的としたカリキュラムです。1年次は発達科学概論と基礎ゼミナール、2、3年次は心理学と教育学関係の科目に加え、各教科の講義と実習、各教科の指導法を学びます。2年次から教育実習も始まります。3、4年次はゼミナール単位で専門的指導を受け、4年次に特別研究として卒業論文を作成します。子どもとのふれあい体験、学校インターンシップ(学びのアシスト)など実践的なプログラムも組まれています。

教員一覧と専門分野

- 石井 哲夫(音楽・ピアノ)
- 磯崎 尚子(家庭科教育学)
- 岡崎 誠司(社会科教育学・総合学習教育論)
- 岸本 忠之(数学教育学)
- 児島 博紀(教育哲学・道徳教育論)
- 坂本 麻実子(音楽学・音楽史)
- 笹田 茂樹(教育行政学・学校評価・教員評価)
- 隅 敦(美術科教育学・図画工作科教育論)
- 多賀 秀紀(音楽科教育学・管楽器)
- 武田 裕司(国語科教育学)
- 土井 徹(理科教育学)
- 橋爪 和夫(体育科教育学)
- 増田 美奈(教育学・授業研究)

こんな人にお勧めします！

- 子どもが好きでいっぱいかわってみたい人
- 保育や福祉の資格を取りたい人
- 障がいのある人や高齢者のサポートをする仕事につきたい人
- 幼稚園・小学校や特別支援学校の先生になりたい人



写真 左：4年 一宮三恵さん<富山県出身>
写真中央：4年 宮袋真衣さん<富山県出身>
写真 右：4年 川合美希さん<富山県出身>



□□ Human Development and Welfare

コースの特徴

乳・幼児期から高齢者までの生涯発達を視野に入れ、人々のクオリティ・オブ・ライフをいかにして高めていくことができるかを考えていくコースです。授業だけでなく、体験や実習を通して様々な人と接する機会が多いのもコースの特徴です。コースの中には「特別支援学校の教員免許の取得」「社会福祉士の受験資格の取得」「幼稚園の教員免許と保育士資格の取得」をめざす3つのサブコースに分かれています。特別支援を必要とする子どもの発達とその支援、福祉支援の専門知識と技術、子どもの発達段階に合わせた支援等を身に付け、現場で広く活躍する人材を養成します。

先輩からひとこと

「社会福祉士とは、専門的な知識や技術を用いて支援を必要とする人たちの問題解決にあたる専門家です。社会福祉の分野は高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、地域福祉など多岐に渡ります。社会福祉士は国家資格であるため、社会福祉士サブコースではこの国家試験合格を目指して日々勉強しています。社会福祉士サブコースは少人数ですが、先生を含めつながりが深く、日々楽しく過ごしています。

私はこれまでに講義や演習、実習を通して広い分野の福祉的支援や面接技術などについて学んできました。実習では、福祉の専門家や地域の人々と触れ合うことで、教科書では学ぶことのできない福祉の現場を知ることができ、とても貴重な体験となりました。時代の変化に伴い、多様な問題が表出し、福祉の支援を必要とする人が増えていくと予想されます。地域にある様々な社会資源を有効に活用し、関係機関と連携しながら支援を行っていく上で、社会福祉士の役割はますます重要となってきます。将来福祉の分野で活躍したいと考えている人は、ぜひ社会福祉士サブコースで、社会福祉士を目指してください。」

(4年 一宮三恵さん・社会福祉サブコース)

「幼児教育サブコースでは、乳幼児期の子どものに関する知識や専門性を身に付けることができます。私たちは日々、子どもの発達や特性を踏まえた適切な声掛けや援助の仕方を学んだり、保育の計画を立てて遊びや環境を考えたりしています。また、絵本の読み聞かせを行ったりエプロンシアター等の教材づくりをしたりと保育をする上で必要と

なる技術も身に付けています。なお、座学だけでなく教育実習や保育実習、親子サークル等を通して多くの子どもたちや保護者の方々と関わる機会もあります。講義で学んだ知識を生かし、様々な経験を経て実践力を培うことが出来るのも魅力の一つです。

幼い頃から保育士になりたいと夢を抱き続けてきた私にとって、保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を取得することも魅力に感じました。このコースには、主に保育士や幼稚園教諭などを目指す学生が所属しています。子どもが好きな学生同士、切磋琢磨しながら勉学に励んでいます。先生方も熱心に指導してくださり、より専門的に保育を学ぶことが出来ます。子どもが大好きで、保育に携わりたいと考えている皆さんにおすすめです。充実した環境が整うこの幼児教育サブコースと一緒に保育を学びませんか。」

(4年 宮袋真衣さん・幼児教育サブコース)

「特別支援サブコースでは、特別な支援を要する子どもから大人まで幅広い年代の人と関わる中で、発達段階に応じた支援や本人の自己選択・自己決定を大切にする関わり等について学ぶことができます。座学だけでなく学校や施設を見学したり実際に体験したりすることを通して、具体的な場面を想定した支援や関わりを考えたり学んだりすることができます。

このコースには、特別支援学校教諭や小学校教諭を目指す人だけでなく、ここでの学びを活かして医療機関や福祉施設で就職を目指す人もいます。私は入学当初、特別支援とは特別支援学校でのみ行われるものだと思っていました。しかし、地域の小学校に通う子どもたちの中にも支援を必要とする子どもがいるということを知り、そうした子どもたちに配慮できる教師になりたいという思いから、このコースで学び、小学校教諭を目指して学んでいます。

このコースの魅力は、同学年同士の横のつながりだけでなく、先輩と後輩、先生方と学生という縦のつながりが強く、忙しい時もみんなで協力し合える環境が整っているところです。ぜひこのコースで信頼できる仲間や先生方とともに充実した学生生活を送ってください。」

(4年 川合美希さん・特別支援サブコース)

取得可能な免許・資格

発達福祉コースでは、特別支援学校教諭1種免許(小学校教諭免許取得が必要となります)、幼稚園教諭

1種免許、小学校教諭1種免許、保育士資格が取得可能です。また、社会福祉士受験資格を得ることもできます。(どのサブコースに所属するかによって、取得可能な免許・資格は異なります)

就職状況

特別支援学校の教員免許を取得した学生は小学校教諭(特別支援学級を含む)や特別支援学校教諭、障害者福祉に関する業務(公務員や施設職員)をめざしています。

幼稚園の教員免許と保育士の資格を取得した学生は幼稚園教諭、保育所または認定こども園、児童福祉に関する業務(公務員や児童厚生施設の職員)をめざしています。

社会福祉士の受験資格を取得する学生は社会福祉士の国家試験を受験して資格を取得の後、福祉行政、医療機関、社会福祉協議会などのソーシャルワーカーをめざします。

カリキュラムの特徴

発達福祉コースは、社会福祉士をめざす場合、特別支援学校教諭をめざす場合、幼稚園教諭と保育士資格をめざす場合のそれぞれに、免許や受験資格取得に必要な授業科目が大きく異なっています。また、それぞれの免許を出す事ができるサブコースの定員が決まっているため、コース選択、及び取得する予定の免許の選択に当たっては、十分な検討が必要です。基礎ゼミナールなどで教員に相談ののってもらいながら、自分の進路をしっかりと見極めることが重要です。

教員一覧と専門分野

- 小林 真(臨床発達心理学・精神保健学)
- 志賀 文哉(健康社会学・社会調査法)
- 千田 恭子(声楽・舞台芸術)
- 西館 有沙(保育学・児童福祉学)
- 野田 秀孝(社会福祉援助技術・医療福祉・地域福祉)
- 水内 豊和(発達障害臨床・家族支援)
- 宮 一志(小児神経学・障がい児医学)
- 若山 育代(幼児教育学・保育内容論)
- 和田 充紀(特別支援教育)

人間環境システム学科 地域スポーツコース

こんな人にお勧めします！

- 体育の先生を目指す人
- スポーツ指導者を目指す人
- スポーツや健康関係の仕事に就きたい人
- スポーツを心から愛している人



写真左：4年 新井日菜乃さん<群馬県出身> 写真右：4年 沖田諒さん<富山県出身>

Community Sports

コースの特徴

保健体育の教員および地域スポーツの指導者をめざす人のコースです。明るく豊かで活力のある社会を実現するためには、生涯にわたってスポーツができる社会が必要であると言われています。そのためには国の政策はもちろんのこと、地域のスポーツ活動が盛んでなければなりません。地域スポーツコースでは、スポーツ文化、スポーツマネジメント、スポーツ医科学、健康科学、野外活動等の授業を通じて専門性と実践能力を身に付けてもらい、学校教育・行政機関・地域スポーツクラブ・スポーツ産業・健康産業などを通じて、地域のスポーツ支援、スポーツ振興、健康増進などにたずさわる人材「健康を支えるスポーツリーダー」を養成しています。

先輩からひとこと

「私は、スポーツについてもっと勉強したい、将来スポーツに携わる仕事がしたいという思いから、地域スポーツコースへと進みました。このコースでは、サッカーや器械運動、バレーボールなど実技の授業で実際に様々なスポーツを自分で体験し、各競技の特性や技術、指導法、そして何よりもそれぞれの競技の楽しさを学ぶことができます。また、スポーツ社会学やスポーツ心理学、スポーツ指導論などの座学の授業では、行政や市場、歴史などといったスケールの大きなものから、学校やトップスポーツ、スポーツクラブなどといった実際の現場、そしてスポーツを実施している個人に至るまでの、スポーツを取り巻く様々な環境、そこで起きている現象や抱えている問題、そこから考えられる理論、といったような、これまでにはなかった様々な視点からスポーツについて学ぶことができます。

そしてなによりこのコースの特徴は、先生方や先輩後輩、そして同期との距離が近く、コース全体の結びつきがとても強いことです。学生に対しての先生方の数が多く、またそれぞれの分野におけるスペシャリストの方々なので、自分の興味のある分野に関して、より深くより専門的に学ぶことができます。また、毎年夏季と冬季に行

われている野外活動実習や普段の授業でコースの同期や先輩後輩と関わる機会が多く、学年関係なく交流ができることで、社会人になっても生かすことができるつながり、そして生涯「仲間」と呼ぶことができるような出会いを得ることができます。

スポーツに興味のある方は、地域スポーツコースの一員になり、楽しくも有意義な大学四年間を過ごすことをおすすめします。」

(4年 沖田諒さん)

「私は幼い頃から体を動かすことが大好きで、いつしかスポーツや体育の楽しさを子どもたちに伝えたいと思うようになりました。そして、将来は教員として運動することの楽しさを伝えられる指導者になりたいと願い、地域スポーツコースに進学しました。

地域スポーツコースには、様々な分野に特化した個性的な先生方がいます。授業では専門的な知識を学んだり、自分の専門科目以外の色々なスポーツを経験したりすることができます。その中で得た知識を生かしながら、各々が高い目標をもち、本気でそのスポーツに向き合っています。高いレベルで部活動に取り組んでいる仲間の真摯な姿勢から刺激を受け、学ぶことも多くあります。

このコースでは、中学校の保健体育の免許だけではなく、小学校免許も取得することができます。進路としては教員だけではなく、プロのスポーツ選手や一般企業、消防など多岐にわたります。それぞれに違う夢があるからこそ、様々な考えや価値観をもった人がいます。そんな仲間と共に学び合える環境はとても魅力的です。

また、夏季・冬季に行われる野外活動実習は地域スポーツコースの醍醐味です。学生が主体となり、企画・運営を行います。実習は他学年が協力して作り上げるものであり、仲間とともに考え悩み、励まし合う中で学年を超えたつながりが生まれます。実習を終えた後の充実感や達成感は、ずっと自分の中に残り続ける財産となります。

スポーツや楽しいことが大好きで何事にも一生懸命な仲間と過ごす毎日は本当に楽しいです。ぜひ皆さんも地域スポーツコースで、充実した学生生活を送ってみてください。」

(4年 新井日菜乃さん)

取得可能な免許・資格

地域スポーツコースでは、中学校教諭1種免許(保健体育)が取得可能で、この免許の取得を条件として、高等学校教諭1種免許(保健体育)を取得する事が可能。他、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、アシスタントマネージャー(受験資格)、共通科目修了証I・IIなど。

就職状況

学校教員、国・地方公務員(県庁・市役所職員、警察官、消防士、自衛官、刑務官など)、総合型地域スポーツクラブ・民間スポーツ施設の指導者および運営スタッフ、健康・スポーツ振興財団や体育協会の職員、各種福祉施設職員、病院職員、マスコミ関係(スポーツ新聞・テレビ局など)、スポーツ産業、一般企業等(自動車産業・銀行・製造業など多数)

カリキュラムの特徴

1. 高度差4,000mを誇る日本海と立山の豊かな自然のなかで行う野外実習(立山登山・臨海実習・スキー実習)
2. スポーツ文化やスポーツ医科学などの専門知識と、それらを現場で活かすことのできる実践能力を養う演習および実習(地域スポーツ演習・インターンシップ・教育実習)などの学習内容を重視しています。仲間とともに学び育つこと、そしてそれを指導することは、教員としてスポーツ指導者として、いま社会から強く求められています。

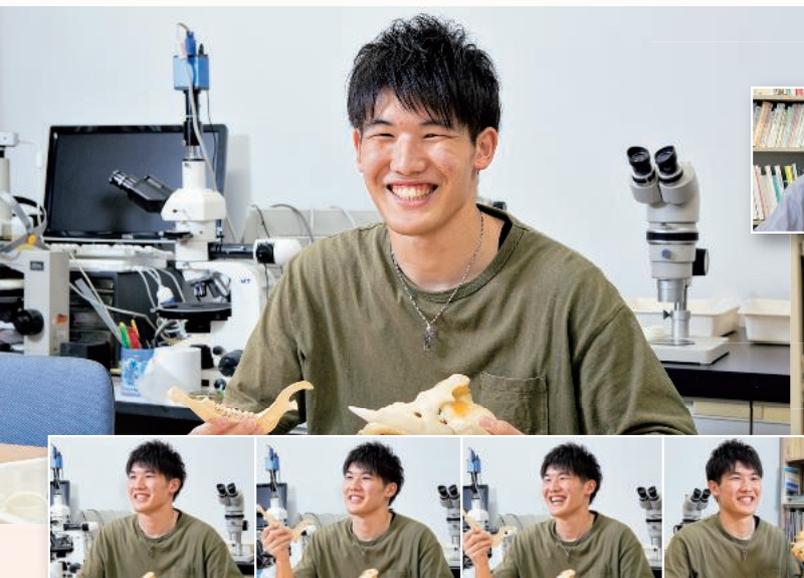
教員一覧と専門分野

- 大川 信行(スポーツ史・バスケットボール)
- 神野 賢治(スポーツ社会学・スポーツマネジメント)
- 佐伯 聡史(スポーツ運動学・体操競技・器械運動)
- 澤 聡美(スポーツと発育発達・身体表現)
- 布村 忠弘(スポーツ医学・学校保健)
- 福島 洋樹(スポーツ心理学・陸上競技)
- 堀田 朋基(身体運動学・サッカー)

人間環境システム学科 環境社会デザインコース

こんな人にお勧めします！

- 中学校の教員（理科・社会）をめざす人
- 専門知識を身につけた公務員をめざす人
- 環境問題に関心のある人
- 生活環境を改善する仕事をしたい人



写真左：4年 小澤拓朗さん<石川県出身>

写真右：4年 北川愛さん<石川県出身>



□□ Environmental Design Research

コースの特徴

グローバルな視点から自然・生活・地域社会の諸問題を総合的に把握し、実務を的確に処理して社会に貢献する人材を養成する事をめざして、学部内でもっともバラエティに富んだ90あまりの授業科目を開講しています。

これに対応して、物理、化学、生物、地球科学、科学ジャーナリズム論、地理、歴史、法律、世界政治、住居学、栄養学と多岐にわたる専門の教員がおり、学生は自分の関心や将来の進路を考慮して、学ぶ科目を自由に選択する事ができます。さらに特別研究では、特定分野の内容を深く追究する事も、複数教員の指導による学際的な研究をする事も可能です。

先輩からひとこと

「環境社会デザインコースでは、多種多様な分野の講義から自分が関心を持った科目を選択し、学ぶことができます。中高の教員免許を取得することもでき、学生の幅広いニーズにも対応しています。私は、もともと社会分野に関心があり、歴史や地理、法律、国際関係など一つの分野にとらわれることなく社会にかかわる様々な知識を学ぶことができています。さらに、専門としている分野以外にも関心のある分野の講義を受講し、自分の世界を広げることもできます。

このコースを象徴するような講義にプロジェクト研究というものがあります。プロジェクト研究では、提示されたテーマの中から一つ選び、グループでそのテーマについて研究していきます。グループには、分野の異なる先生方と普段学ぶ専門が異なる学生が集まっており、一つのテーマについても様々な視点からの意見が出てきます。議論を重ねていく中で、自分自身の視野が広がり、成長を実感できます。

3年次からは、ゼミに所属し、1,2年次に学んだ中から特に関心を持った分野を深く学んでいきます。ゼミは、一学年3人程度の少人数による活動で、一人ひとりの研究に先生が熱心に指導をしてくれます。

卒業後の進路は、教員や公務員、民間企業など様々

です。異なる目標を持つ友人と刺激し合い、同じ目標を持つ友人と助け合いながら、目標に向かって励むことができるところが、このコースのいいところですよ。」

(4年 北川愛さん)

「このコースでは自然・生活・地域社会と幅広い分野の内容を取り上げた講義を開講しています。それぞれ基礎的な内容から発展的な内容まで取り扱っているため、大学で幅広く様々なことを学びたい人にはもちろん、専門的に学びたい人にもおすすめしたいコースです。

私は中学校1種・高等学校1種の理科の免許を取得するための授業を選択し受講しています。他コースの講義も選択することができるので、教職科目で教育に関することを学び、専門科目で専門性を深め、その他の講義では自分の教養を増やすために勉強しています。このように目指している職業に必要な、知識や教養を身につけるために講義を選ぶことも可能です。

また、このコースに配置されている研究室には、3年生になる際に配属されます。それぞれの研究室で学んだ知識を持ち寄って、1つのことを様々な視点から研究することもあります。違う研究室の学生と関わることで様々な刺激があり、より深い学びとなります。

勉強や部活動、ボランティア活動など、大学生だからできることを大学生の内に行うことで、充実した大学生生活が送れると思います。」

(4年 小澤拓朗さん)

取得可能な免許・資格

環境社会デザインコースでは、中学校教諭1種免許(理科、社会)が取得可能で、これらの免許の取得を条件として、高等学校教諭1種免許(理科、地歴、公民)を取得する事が可能になります。

就職状況

本コースが育成する学際的な視野と実務能力を兼ね備えた人材はさまざまな職種で評価され、多様なフィールドで活躍の場を広げています。本コースのバラ

エティに富んだスタッフとカリキュラムを学生たちが思う存分に活用して、自分が本当に進みたい分野を発見し、社会に羽ばたいていく事を期待しています。

主な就職先・進路: 学校教員、地方公務員(警察含む)、一般企業(銀行など)、その他大学院進学

カリキュラムの特徴

文系・理系にとらわれないもの見方や問題解決能力の育成を目指します。なかでも複数教員が指導するプロジェクト型授業が特徴的です。2年次「プロジェクト研究」では、地震や食などの学際的テーマを題材に、課題発見から問題解決に至る研究方法を学び、1つのプロジェクトの企画から運営まで学生が取り組みます。このような取り組みにより4年次の特別研究や卒業後の進路につながる実践的なスキルを身につけます。

教員一覧と専門分野

- 秋月 有紀(住居学・建築環境工学)
- 池田 文佑(世界政治学)
- 片岡 弘(物理化学)
- 河村 愛(地学・古生物学)
- 高橋 満彦(環境法(自然保護・動物・農業))
- 徳橋 曜(歴史学・イタリア中世史)
- 中村 只吾(日本史学(近世史))
- 成行 泰裕(宇宙プラズマ物理学・物理教育)
- 林 衛(カリキュラム開発研究・市民社会メディア論)
- 藤本 孝子(栄養学・食品機能学)
- 安本 史恵(生命科学・神経科学)
- 山根 拓(人文地理学・近代歴史地理学・都市地域学)

人間環境システム学科

人間情報コミュニケーションコース

こんな人にお勧めします！

- 英語力を活かした仕事をしたい人
- IT企業で活躍したい人
- メディアクリエイターを目指す人
- 数学、英語の先生を目指す人



写真左：4年 草別萌香さん<富山県出身>

写真右：4年 箕谷大輝さん<富山県出身>



Information and International Communication Sciences

コースの特徴

国際化、情報化時代にある現在、言語、ICT(情報コミュニケーション技術)等の手段を駆使し、多様な文化的背景を持つ人々と協力して、地域レベルから国際的な諸分野まで活躍できる人材が求められています。人間情報コミュニケーションコースでは、言語、ICT、数理、メディアによるコミュニケーション能力を育て、新たな時代を切り開いていく人材を養成します。特別研究では、新しいコミュニケーション能力、表現方法の探求、支援技術や指導方法の開発など、バラエティに富んだ研究領域から選択し、深く追究していきます。

先輩からひとこと

「人間情報コミュニケーションコースの魅力は、言語、ICT、数理、メディアと多くの分野から自分が興味・関心のある事柄について学べることです。また様々な進路決定ができることも魅力の一つであり、教員だけでなく企業就職や公務員を目指す学生も多くいます。

私は英語を専攻し、英語教員を目指しています。3年次から所属する研究室(ゼミ)では、英語教育に関することや、教員として必要とされるスキルや知識について先生と学生で学び合っています。また現職の先生方の講義を受けたり、その授業に参加したりする機会が多くあり、実際の教育現場に出る前の準備段階として非常に貴重な学びを得ることができました。

また私は2年次に1か月間アメリカへ、4年次に7か月間カナダへ語学留学しました。英語力の向上はもちろんのこと、外国人の友達が多くできたり、その国でしか味わうことのできない体験をしたり、日本を長期離れて初めて日本の良さに気付いたりと貴重な経験を積むことができました。その中でも最も価値があったと感じるのは、異文化交流を通して自身の考え方が深まった点です。自分の中の常識が覆される瞬間に多く出会えるのは留学の大きなメリットだと思います。

私はこのコースに所属して非常に充実した日々を送っています。英語・数学が大好きな方、メディアやICTに興味がある方、あなたもこの人間情報コミュニケー

ションコースで仲間と共に学んでみませんか?
(4年 箕谷大輝さん)

「人間情報コミュニケーションコースでは情報メディア、数理、日本文化、英語コミュニケーションなどという分野について学ぶことができます。幅広い分野から学ぶことができることはこのコースの大きな特徴です。

私は現在情報メディアについて学んでいます。しかしこのコースの特徴である様々な分野があることを活かし日本文化や英語コミュニケーションなど自分の興味のある勉強もしてきました。学びたいという気持ちがあればこのコースにはそれをかなえられる環境があります。

幅広い分野を学べる環境があるため様々な方向に進むことができ、教員志望の学生はもちろんのこと他の職業に就くことを目指す学生もいます。

私はこのコースで様々なジャンルから自分の学びを深めることができている。また自分とは違った分野について学ぶ学生との交流から多くの刺激ももらっています。

あなたも人間情報コミュニケーションコースで有意義な大学生活を送ってみませんか?
(4年 草別萌香さん)

取得可能な免許・資格

人間情報コミュニケーションコースでは、中学校教諭1種免許(数学・英語)が取得可能で、これらの免許の取得を条件として高等学校教諭1種免許(数学、英語)を取得する事が可能になります。

就職状況

どの分野の職種でも、コミュニケーション能力は最も求められる能力です。また、情報や言語、表現といった専門的知識を活かし、様々な活躍の場を広げています。大学院進学者を除いて、これまでの卒業生は、学校教員、国・地方公務員(県庁・市役所職員)、IT関連企業(システム開発、Webデザイン)、広告、印刷出版、映像制作、

マスコミ関係、イベント関係、一般企業等に就職しています。

カリキュラムの特徴

人間の様々なコミュニケーションとメディアについて、
1. 理論的な内容「異文化コミュニケーション論」、「線形システム概論」、「メディアコミュニケーション概論」、「メディア芸術論」など
2. ICT、英語を道具として使いこなす実践力を養う演習「情報集中演習」、「英語集中演習」、「テクニカル・ライティング」、「メディアデータ編集法」などのように理論的な内容と実践力を養う演習を通して、バランス良く学びます。また、コース内の様々な分野の科目だけでなく、他の学科、コースの科目を組み合わせることで、自分の興味関心や将来の職業に合わせた特色を持ったカリキュラムを作ることができます。

教員一覧と専門分野

石川 秀明(数論・解析数論)
荻原 洋(応用言語学・言語習得論)
上山 輝(デザイン・マルチメディア・映像)
黒田 卓(メディア教育・教育工学)
竹腰 佳誉子(アメリカ文学・異文化コミュニケーション)
竹村 哲(システム思考・問題解決学・創造性開発)
鼓 みどり(メディア論・メディア史)
内藤 亮一(英文学・シェイクスピア)
西田谷 洋(日本近代文学)
宮城 信(日本語学・国語教育)
山口 範和(偏微分方程式論・数学解析)

授業や研究の様子

発達教育学科 教育心理コース

臨床心理学



臨床心理学は幅広い心理学分野の中で、心理療法・心理アセスメント・カウンセリングといったトピックを含み、心理的な困難を抱えた人の支援にかかわる、実践の学です。さらに、心理的な困難を多角的に理解するため、精神医学や異常心理学といった近接領域のトピック

も関係してくる、とても幅広い学問分野になります。この授業では、このように幅広い内容からいくつか重要なものを取り上げて、丁寧に解説していきます。無意識的な「こころ」の影響であったり、具体的な行動の改善であったり、「こころ」の自己治療的な話も含まれます。この授業を通して、心理的な適応・不適応とは何かについて深く問いかけ考えることにより、自分自身のメンタルヘルス、ひいては自分自身の来し方行く末を考える、良い機会になるかもしれません。

心理学実験法



どのような味の料理ができるかはそのレシビ次第であるように、私たちの人生においてどのような「リアリティ」が構成されるかは、その方法つまり「生」のレシビ次第です。科学的な実験についても事情は同じで、その結果はその方法に依存しています。特に心理学の研究において

は、研究する側にも「こころ」があるため、実験の手法や結果の読み取りに、先入観をはじめとする様々な歪みが生じる危険があります。そういった危険性や限界の留意点を踏まえつつ、しかし一方で、人の「こころ」の不思議に巧みなアプローチをかけ、人の心的一端を科学的につまびらかにする、そんな心理学の多様な実験手法について、実際にいくつか体験しながら、学んでいきます。この体験はもしかしたら、あなたに心地よい衝撃＝アハ体験を与える、かもしれません。

知覚心理学



私たちの目はカメラと違い、耳はマイクと同じでなく、そして脳はパソコンのCPUとイコールではありません。つまり私たちの「こころ」は、世界をそのままに受け止めて認識しているわけではないのです。私たちは、私たちが意識的無意識的に作り上げた「世界」を、「こころ」

を通して知覚し、その中で生きています。この授業では、実際の錯視（目の錯覚）素材などをとおして、我々が「世界」（物理的な刺激）をただそのままだに「知覚」しているわけではない、ということを経験し、そのうえで、では我々がどのように「世界」を作り上げているか、「こころ」の不思議なメカニズムについて学んでいきます。ロボットと人はどこまで同じでどこから違うのか…この授業では、ヒトとは一体何なのか、考えさせられること間違いなしです。

健康心理学



健康心理学とはその名の通り、人の心身の健康に関する心理学の総合的な名称です。でも、そもそも「健康」とはいったいどんな状態でしょう。病気とは対極にありそうですが、かの世界保健機構（WHO）も『健康とは単に疾病又は病弱の存在しないことではない』と言っています。

す。まして目に見えない「こころ」の健康とは何なのか。本講義では、そんな分かりにくさをかみしめつつ、身体の健康と「こころ」の関係、病気になりやすい／なりにくい性格、身体の痛みと「こころ」との関係など、様々な健康心理学のトピックを紹介していきます。さらに、リラクゼーション技法や見方を広げるワーク、自己分析のワークなど、様々な心理学の支援技法の体験を通して、「こころ」の健康とは何か、どのような状態なのか、様々な思いを巡らせていきます。

性格心理学



自分の性格、あの人の性格、そして性格と性格の相性…性格は、いつの世も人にとって大きな関心事の一つであり続け、そして心理学でも同様に、重要な研究分野の一つであり続けています。しかし、一口に性格といっても、目に見えず手に取れないそれは、かなり捕まえにくいものです。

「やさしい」性格ってどんなやさしさ？「まじめ」って言葉が意味するところは？…性格の不思議は、挙げれば尽きることはありません。性格心理学では、こういった性格をどのように捉えて研究しているのか。性格の様々な理論や、性格がどのように形作られているのかについて最新の研究を踏まえてしっかりと解説していきます。この授業を受けることで、自分やあの人の性格の理解が深まるとともに、根拠の全くない血液型性格占いがなぜ当たっているように錯覚するのか、よく理解できるようになるでしょう。

心理学研究法



心理学は大きな分類としては社会科学に含まれる分野であり、他の社会科学と同じように、客観的・科学的な手法にのっとりて人の「こころ」を分析し、その一般傾向や法則性を見出し、いく学問で、そこで重要になってくるのは、分析対象となるデータを客観的・確かな形でどのように集めるか、といった収集

方法や、得られたデータを体系的に解析して豊かな情報を引き出していくための分析手法です。心理学の研究対象である「こころ」は捉えどころのないものなので、ターゲットとして幅が広く、そのためデータの集め方や分析手法にも多くの種類があります。この授業では、心理学の研究論文を調べて読むことで、科学としての心理学的データの集め方や分析手順を学んだり、それらを踏まえて実際にデータを集めて分析してみたりすることで、心理学の研究の「作法」を实际的に学びます。

発達教育学科 学校教育コース

図画工作科教育論



この講義では、小学校の図画工作科の授業を担当するために必要な知識や技能を獲得することを目的としています。毎回、

実際に小学校で使用されている教科書を用いて班ごとに教師役の学生が模擬授業を行いながら、指導に求められる基礎的な事項や理論について学ぶことができるようになっています。写真は、6年生の「くるくるクラック」の導入を教師役の学生が行っているところです。

理科教育論



この講義では、「なぜ理科を学ぶのか」、「理科の学習指導方法論には、どのようなものがあるか」といった、理科の授業を

行う上での基盤となることについて学習することに加えて、小学校理科で行われる観察・実験を自らが体験しながら、授業を担当するために必要な知識や技能が獲得できるように配慮しています。さらに、小学校理科の授業参観や、自分自身が教壇に立つて授業を行う模擬授業を通して、実践力の向上を図っています。

総合的な学習の時間教育論



総合的な学習の時間は、教科の学習と異なり、教科書がありません。児童生徒が自ら学習の課題を設定し、情報を収集し、それを整理・

分析し、その結果をまとめ、表現します。この講義では、児童生徒が自ら課題を設定するための教師の支援、児童生徒が主体的に情報収集を進めるための教師の支援などを学びます。文献等を基にしながらも、受講者同士の話合いを中心として、具体的な支援や指導の方法等を考えます。教師になったときに必要な実践的な力を付けることをねらいます。

地域交流活動論



この講義では、学校から地域へどのような連携を投げかけて交流を行ったらよいかについて、求められる知識や態度を育

成することを目的としています。毎回、学校における地域交流活動の事例を紹介したり、ゲストスピーカーを招聘したりして、最終的には、受講生が企画した地域交流活動を用紙1枚にまとめてプレゼンテーションを行います。写真は、黒部市美術館の学芸員さんに館の活動についてお話を聞いたところ。

音楽科教育論



小学校で音楽の授業を担当する教員として必要な知識と技能を身につける科目です。写真は、グループに分かれての教材

研究で、「こきりこ」を歌とリコーダー合奏に編曲してやってみようというものです。

教育の思想と歴史



この講義では、「教育とはそもそもどんな営みだろうか」、「過去と現在で教育や学校のあり方にどのような変化があるのだ

ろうか」といった問いのとも、教育をめぐる理念や思想、歴史について学習します。こうした学習を通して、教育学の各分野や各教科の指導法を学んでいくための土台を固め、また、現代社会における教育や学校の意義・可能性・課題について自ら批判的・創造的に考える力を養うことを目指します。

発達教育学科 発達福祉コース

地域福祉論



今日の福祉の目的は地域における福祉の推進（地域福祉の推進）であり、地域はその特色も様々です。子どもが多い地域もあれば高齢化の進んだ地域もあります。その地域に住んでいる人々の生活に合わせて、そこに住む人々が、主体的に福祉に

参加することができる社会・地域の福祉の課題を解決できる社会をどのように構築するのかを考察します。地域福祉に関する歴史的認識、今日的に到達した概念、地域を援助する技術的な方法論なども含めて、今後とも変化していく地域福祉に適切できるように基本理論を学びます。少子高齢化の進む今日の社会の中で安心して生活できる地域とはなにかを専門家として将来的に実践できることを目指します。

ソーシャルワーク演習



社会福祉士を目指すにあたって、実践力の高い専門家になるためには、知識を実践の力にしていくなり。ソーシャルワーク演習はそのための科目であり、大学の科目で学ぶことと社会福祉実践現場での実習という形で学ぶことの仲介する役割を持ち、ロールプレイングや事例検討を行うことで、知識を実践の力にしていくなり。演習形式の講義となります。個人に対する援助から小集団・グループ、地域に至る援助までを含む幅広い分野での演習講義を行います。

践で発揮できるようにするためには訓練が必要となります。ソーシャルワーク演習はそのための科目であり、大学の科目で学ぶことと社会福祉実践現場での実習という形で学ぶことの仲介する役割を持ち、ロールプレイングや事例検討を行うことで、知識を実践の力にしていくなり。演習形式の講義となります。個人に対する援助から小集団・グループ、地域に至る援助までを含む幅広い分野での演習講義を行います。

保育内容（人間関係）



幼稚園・認定こども園・保育所では、小学校以降の学習と違って「教科」という考え方が存在しません。幼稚園等で行う教育は「領域」と呼ばれています。大学では、こうした教育の内容（保育内容）について専門的に学びます。幼児教育の中に

は「人間関係」と呼ばれる領域があります。乳幼児期の人間関係の発達に関する講義のほかに、演習による学習活動の一環として、人間関係を育てるゲーム遊びを自分たちで考え、保育の模擬体験があります。この写真は、子どもたちが協力で遊びを進めているように、視覚的な手がかりを使わずに遊びのルールを説明する模擬保育の一場面です。本学部ではこうした体験的な学習も大切にしています。

保育内容（言葉）



本演習は、乳幼児の言葉の発達を援助するための知識、技術、判断力の基礎を身に付けることを目的としています。この演習では、乳児期から年長児までの言葉の発達を理解し、それぞれの年齢に応じた関わりについて15回を通して考えます。この写真の回では3歳以

上児向けの絵本を各自が持参し、読み手と聞き手が一緒に楽しんだり、一体感を味わったりできる絵本について考えました。絵本を読むと、わくわくしたり、思わず笑ってしまった、時には悲しい気持ちになったりすることがあります。そのような喜びや他者との一体感を子どもたちに感じてほしいという願いを持って、受講生は絵本を読む練習をしています。

特別支援教育学Ⅰ・Ⅱ



特別支援教育学Ⅰ・Ⅱでは、「障害」、「障害のある子ども」、そして「特別支援教育」とは何かということについて、講義のみならず、障害のある幼児の在籍する保育所や障害者雇用就労支援施設、障害者雇用の現場を訪問することなどを通して理論的、体験的に考え、学びます。

またその中で、生涯発達、家族支援、自己理解、自己選択と自己決定、インクルーシブ教育、アクセシビリティ、合理的配慮など重要な概念についても探求します。毎回の講義では、一人一台iPadを用いており、実際に障害のある子どもがわかって動けるための支援ツールを作成したりするなど、これからの時代にあたりまえとなるICTリテラシーの高い教育支援人材の育成をねらいます。

知的障害児の教育診断臨床Ⅰ



教育支援・心理診断に欠かすことのできない諸検査や、知能や心身の発達に関する様々な評価方法について学習します。具体例をあげると、乳幼児の発達評価（M-CHAT、KIDS）、発達障害の評価（PARS、ADHD-RS IV）、学習障害の評価、語い発達検査（PVT-R）、知能検

査（田中ビネー、WISC-IV）、適応行動尺度（Vineland-II）など、多種多様な諸検査の目的、内容、実施法、採点・評価法、利用法について学ぶことのできる授業です。知能検査は机上で学習するだけでなく、附属学校園との連携のもと実際に実践を行う場合もあり、実施法および利用法についての学びを深めています。心理評価法に関して講義・演習・実践を通して習得できる特色ある授業です。

人間環境システム学科 地域スポーツコース

スポーツ指導論



運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければいけません。「運動技術」「運動技能」「運動構造」「達成力」「運動習熟」「運動の観察」「運

動モルフオロギー」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などの各項目についての論理的な理解をもとに、スポーツ・運動指導の方法について解説しています。

スポーツマネジメント



スポーツの産業化とともに、スポーツに関連する仕事が増えてきました。スポーツを商品とし売買をする「マーケティング」やスポーツを利用して仕組みづくり

をする「マネジメント」について、具体的な手法を学び研究します。また、現場の企業・団体（プロスポーツクラブ、行政等）において企画・運営などを実践していきます。

地域スポーツ演習



「健康・スポーツ」をキーワードに、地域に対してサービスを創出する授業です。「ヒト・モノ・カネ・時間・環境」に制約される条件のもと、企画・運営・管理を

おこない、実務を通じて、その問題点や限界について議論を深め、企画を遂行・統括する視点を身につけることができます。

スポーツ動作分析法



地域スポーツ支援に関する科目として、各種スポーツにおける動作の撮影方法について学び、各種スポーツ支援の一助となることをねらいとしていま

す。動作を撮影する際のカメラの設定方法、撮影場所の設定等について理解し、各種スポーツに適した動作を撮影できるようになります。

夏季野外活動実習



夏季野外活動実習（臨海）では宿舎・食事・安全管理等の重要事項を学

生が中心となって「協力してやり遂げる力」を養います。

スポーツ医学



スポーツ傷害の概要とスポーツ傷害を起こす要因について学び、スポーツの現場でできることは何かを考える授業です。整形外科か

ら「休めば治る」と言われたらどう捉えればよいのか、「やれば痛くなる」のをどう克服すればよいのか分かれます。

授業や研究の様子

人間環境システム学科 環境社会デザインコース

人間社会の地理学



「地理学とは何か？」を考えます。地理学的伝統の変遷を追跡し、様々な対象・社会現象を地理学的に考察する方法を学ぶことにより、地理学的視角 (Geographical Perspective) を理解します。

都市景観論



都市計画における美観整備や歴史的建造物の保存、広告規制、景観法などの法整備について、各国の都市の取り組み事例を踏まえ解説します。また町並み景観整備に積極的に取り組んでいる富山県下の地区を紹介します。

基礎生命科学実験



生物のからだの構造と機能がいかに関連しているか、実習を通じて体感する。また時間軸、個群と様々な視点を移動しながら、「生命」をとらえる。写真は脳の組織。

栽培技術実習



本学部が保有する附属農場で行われる授業です。キュウリ、ナス、トマト、じゃがいも、さつまいもなどだけでなく、米、エコマ、花卉などの様々な作物を種から育てて、収穫を楽しんでいます。

地球社会学演習



現代世界が抱える「地球的問題群」を多面的に理解し、解決に向けた方法を探ります。写真は論文執筆のために行ったインド・ハリヤーナ州での調査の1コマです。

栄養学



各栄養素の分類、体内での働き、消化と吸収などの栄養に関する基礎知識及び健康と食物摂取との関わりについて学びます。

人間環境システム学科 人間情報コミュニケーションコース

英語集中演習



英語の読解力に大きな影響を与えるものとして語彙に関する知識があります。またその語彙の力をつける有効な一つの方法に「多読」と呼ばれる勉強方法があります。この授業では、多読の方法について説明すると共に、受講者がそれぞれ自分に合ったレベルの英語の本を「大量に読む」ことによって、英語の語彙力や読解力を身に付けることを目指します。

情報集中演習



コンピュータは清書の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化するためのツールです。コンピュータに使われるのではなく、本当にコンピュータを使うために、実際に動くプログラムを作成しながら、プログラミングの考え方をマスターすることをめざします。

テクニカル・ライティング



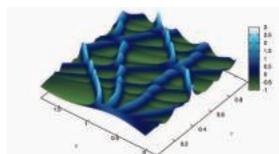
人に物事を正確に伝えるための文章の書き方を学びます。また、書くためには知識・技術が必要です。具体的には小説分析の課題で、自分で調査・考察した文章を作成し、口頭発表・質疑を行い、表現能力を高めます。

日本語運用基礎論



「日本語運用基礎論」は、これまでお座なりにしてきた日常のコミュニケーション (例えば、お願ひする、誘う、説明する等) をうまくいかなかった会話例を検討しながら、自分なりの伝え方を創り出していく授業です。

モデル化とシミュレーション



様々な自然現象に対する数学的アプローチの方法を学びます。図は計算機シミュレーションを用いて描いた浅水波方程式の解の時空間におけるグラフです。浅水波方程式は津波の数理モデルの一つです。

メディアデータ編集法



1年次後期にある基礎的な専門科目の授業です。メディアデータの制作の基本となるアプリケーションの使い方をマスターし、将来のデザインや映像、コンテンツの課題に対応できるような基礎力を身につけます。

子どもとのふれあい体験

「子どもとのふれあい体験」は、今年で教育学部から続けて20年目を迎える本学部の1年生から3年生対象の特徴ある授業科目です。社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供する目的で設定されています。この科目は、単に大学内だけに留まらずに、各コースとも地域社会に出て、関係団体・施設等との関わりの中で、人を育てる人を育成する科目として非常に重要な役割を果たしています。この科目を選択して、年間60時間の活動を行い、体験レポートを作成すると、2単位を取得できます。教員をめざす学生のみならず、公務員や一般企業への就職をめざす学生にとっても、社会と繋がる貴重な実践の場として認識されています。

発達教育学科共通専門科目

(1999年度から開設)

- 選択必修
 - ・発達教育学科 学校教育コース
- 選 択
 - ・発達教育学科 教育心理コース
 - ・発達教育学科 発達福祉コース
- 人間環境システム学科
 - 教員免許取得希望者は、受講することが望ましい。

子どもとのふれあい体験 各コースの紹介



1 野外活動 コース(A・B・C)

本コースは3つのサブコースに分かれ、それぞれ「野外活動」や「キャンプ活動」を通して、子どもたちとふれあいます。Aコースでは、富山県キャンプ協会主催の「コアラクラブ」の野外活動にボランティアとして参加し、子どもたちのリーダーとなって自然体験活動のサポートをします。Bコースでは、立山青少年自然の家主催の「ボランティア養成セミナー」を受講し、自分の選んだキャンプ事業にボランティアとして参加します。Cコースでは、砺波青少年自然の家で夏合宿や秋冬に子どもたちの合宿をサポートします。それぞれのコースでは、講習会に参加し、「野外活動」や「キャンプ活動の知識・技能を学ぶだけでなく、実際の「キャンプ活動」等にボランティアとして参加し実践力を身に付け、指導者としての力量の形成をはかります。



2 遊び援助 コース

本コースは、放課後や休日の子どもたちの健全育成を目的として、小学生が児童館で様々な遊びを体験するのを援助するコースです。富山市東部児童館と、富山県子どもみらい館（射水市太閤山ランド内にある大型児童館）に分かれて活動します。実際に子どもとふれあうのは原則として毎回、ミーティングや準備をして5月から3月までの月1回活動を行います。それ以外にも児童館が開催する各種の活動に参加し、子どもの支援を行う場合もあります。



5 科学実験・ICT活用 コース

本コースでは、学校外における教育機会への参加を通じて、子どもとのふれあいの中で広い意味でのサイエンス・教科教育・ICT活用を行うための基礎を学びます。子どもに「楽しい」「面白い」と感じてもらうながら正しい科学やICTの知識を身につけてもらうための工夫を重ねる中で、自分自身（受講生）の学習と教育実践を結びつける力を養います。昨年度は、本大学の夏季学童保育、かたがご保育園、理学部主催のサイエンスフェスティバル、富山市立科学博物館で、それぞれ子どもたちを対象に楽しい実験の場を設けました。



3 不登校児童生徒の援助 コース

富山県総合教育センター教育相談部が主催している「体験活動」や「グループカウンセリング」に参加し、実際に不登校児童生徒とのふれあいを行います。「学校は楽しいところ。」「そんな多くの人にとっては当たり前のように思えることが当たり前ではないという子どももいます。学校は先生や周りの友達と関わり、勉強するだけでなく、社会のこと、人間として生きていく上で大切なことを学べる場です。しかし、人間関係が複雑で多くの悩みや、問題が生まれる場ともいえるでしょう。実際に悩みを抱え学校にいけない子どもは多くいます。本コースはそんな子どもたちと実際にふれあい親身に向き合って考えることができます。



6 発達の気になる子どもの援助 コース

小学校や中学校には、軽度の知的障害児や発達障害児、そして特に医学的な名前はないけれども、発達が気になる子どもが数%在籍しています。本コースでは、発達障害児などの子どもを育てている親の会で、『富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」』に参加して、子どもたちの健全育成を図ります。「ゆうの会」それ自体は親の会ですが、その子どもたちは発達障害や軽度の知的障害を有しています。こうした子どもたちに、健全な遊び場や社会参加・社会貢献できる場を保障することで、子どもの発達を促す場づくりを行っています。なお、本コースは、子どもの年齢に応じて小学部と中・高部の2つのグループに分かれています。



4 美術館子どもワークショップ運営 コース

本コースでは、富山県内の美術館における子ども対象のワークショップ「とみだい☆ベケベケアートショップ」を準備・運営します。ここでは、展示作品の鑑賞をきっかけにした制作を行うワークショップを通して、子どもたちとふれあうことを目的とします。美術作品に親しむことを核にした作品との出会いの仕組み方や、楽しいものづくりの準備を行うことで、子どもたちに興味・関心を抱かせるための活動をどのように運営していくかについて実践的に学ぶことができます。昨年度は、本学部の図工室以外に、南砺市立福光美術館、牛牛人記念美術館、朝日町立ふるさと美術館、富山県美術館で合計8回のワークショップを開催しました。



7 親子サークルわくわく会 コース

本コースでは、発達に気かりがある幼児から小学校低学年の子どもとその家族の親子サークルに参加して活動を行います。1つの家族ではできない楽しい体験活動をテーマに様々な活動をしており、学生自身も楽しみながらお手伝いをしています。主な活動は、ファミリーパークへの遠足や流しうめんやスイカ割り、ハロウィンパーティーやクリスマス会などで、子どもたちの成長や笑顔がたくさん見られます。

各企画紹介

巨大迷路

本企画では、約2mを超える段ボールを使い、体育館一面に巨大迷路を作ります。昨年のテーマは「日本縦断」で、スタートからゴールを北海道から沖縄に見立て、「日本中に散らばったスマレンジャーをキャラバン隊となって探しに行こう」というストーリーで装飾を作っていました。クオリティの高い装飾を巡りながら、子どもも大人も一緒に迷い、楽しむことができるのは、巨大迷路の魅力の一つです。



夢いっぱい☆遊べる!

おもちゃ工房

去年は、「バックカー」「チラン鉄砲」を行いました。「おもちゃの遺跡」をテーマに、子どもたちが自分で工作を作る下準備や、作ったおもちゃを使ってゲームができる場所を用意しました。当日子どもたちは一生懸命おもちゃを作り、全力でおもちゃで遊ぶ様子を見ることができました。



おかしの国

昨年度は「おしごと」をテーマに「お花屋さん」「ケーキ屋さん」「学校の先生」「サッカー選手」の4つの職業をおかしだけを使って表現し、子どもから大人まで様々な方に見ていただきました。キット体験では、子どもたちひとりひとりが自分だけの「おかしの家」を作り、完成した家を見て、とても満足そうにしていました。また、4つの味のチュロスを販売し、多くの来場者の方におかしの国を楽しんでいただきました。



ちびっこチャレンジャー

この企画では毎年違った内容のストーリーを考え、それを基に部屋の構想・ゲーム・衣装などを学生の手で一から作っていきます。昨年度のテーマは「アニマル探検隊〜世界の動物たちに会いに行こう〜」で、子どもたちが世界中を旅し、そこで出会った動物たちのお願いを叶えていくというストーリーでした。子どもたちが頑張る姿をみることができ、子どももスタッフも笑顔あふれる体験ができる企画です。



スポーツバイキング

この企画は、スポーツを基にしたゲームを作り、子どもたちにたくさん体を動かして楽しんでもらう企画です。昨年は「富山」をテーマに、ボールゲーム、射撃、アスレチック、カーリングの4つのゲームを作りました。当日はたくさんのおもちゃが来てくれて、元気に体を動かして楽しんでいました。何度も遊びにくる子もいて、スポーツを通してたくさんのおもちゃたちと関わることが出来ます。



さいえんすらぼ

子どもたちに科学を身近に感じ、楽しんでもらうために、毎年様々な科学実験を行っています。昨年は、磁石の力を使った上り虫、重曹と酢の反応で飛ぶペットボトルロケット、空気砲の実験を「サイエンス王国の宝物を取り戻せ!」というストーリーとともにに行いました。どの実験も子供たちがワクワクした目で取り組むので、私たちスタッフもとても楽しむことができます。子供も大人も一緒になって、科学の面白さを感じられる企画だと思います。



わくワーク☆キッズタウン

～お仕事体験～



【電車のお仕事ブース】

本企画では、昨年度は電車のお仕事をしました。子どもたちは車掌さんの衣装を身につけ、改札で切符を確認したり、電車の運転をしたりして、楽しみながらお仕事を体験していました。大きな電車の模型や駅のホームの看板、装飾は子どもが触って楽しめるだけでなく、写真撮影ブースにもなり保護者の方々にも大好評でした。



【お医者さんブース】

杉谷キャンパスの学生によるブースです。救急や薬、からだの仕組みについてパズルやクイズをしながら楽しく学びました。聴診器など、普段は触れないものにも触れてもらい、医療の恐怖心を減らすきっかけにもなったのではないかと思います。白衣を着た子供たちの姿も格好よく、親御さんも笑顔になってしまいます。

フェイスペインティング

専用の絵の具で、子どもたちと希望される保護者の方の顔や爪にスマイルフェスティバルのキャラクターであるスマレンジャーをペイントしてあげるという企画です。当日は子どもたちとの距離がとても近く、ペインティング中にもお話しして、一緒に楽しむことができるのも特徴です。子どもたちの嬉しそうな顔をたくさん見る事ができました。



【市内電車利用】

富山駅から約15分

【バス利用】

富山駅前 富山地铁・路線バス
「富山大学経由」(3番乗り場) 乗車約20分
「富山大学前」バス停下車すぐ

【タクシー利用】

富山駅から約15分
富山きときと空港から約15分

【車利用】

北陸自動車道「富山西IC」から約15分、
「富山IC」から約20分
(ご来学にあたっては、なるべく公共の
交通機関等をご利用ください。)

周辺地図・交通アクセス



問い合わせ先：富山大学 人社系学務課 人間発達科学部担当
TEL. 076-445-6259 FAX. 076-445-6357
E-mail : kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp